

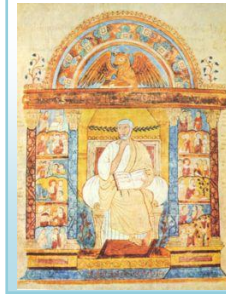
5月26日

主教カンタベリーのオーガスチン

Augustinus Cantuariensis

(? ~ 605)

～初代カンタベリー大司教～



「カンタベリーの
アウグスティヌス」

イギリスへの伝道者で、初代カンタベリー大司教。オーガスチンは英語読みで、教会史や人名辞典には「アウグスティヌス」と表記される。

イギリスはもともと古代ローマ帝国の属国であり、そのため2世紀にはこの地にキリスト教は広まっていたと考えられる。ちなみに6月22日が小祝日の殉教者オルバンはブリテンの人物だが、3世紀終わりから4世紀初頭にかけてすでに迫害されていた。しかし、5世紀中頃になって、アングロ人・サクソン人が英国に渡り、イギリスにおけるキリスト教はほとんど消滅状態に陥ってしまう。

ときの教皇グレゴリー(グレゴリウス)1世は、アングロ・サクソン人のキリスト教化のため、ベネディクト会士であり、ローマの聖アンドレアス修道院長であったオーガスチンを宣教師として、30～40人の修道士とともにゴールに遣わす。しかし、オーガスチンらの間に残虐なアングロ・サクソン人によって迫害されるというわさが広まり、一度ローマに帰ろうとした。しかしグレゴリーは「すでによいことを始めたのだから、万難を拜してこれを全うせよ」という激励の言葉を送り勇気を与える。

そしてついに597年、オーガスチン一行はイギリスのケントへと渡る。

当時の王エゼルベルトはフランス王の娘、ベルタを王妃としていたが、彼女はカトリック信者であ

り、その信仰を妨げないことを条件に嫁いでいた。オーガスチンらは彼女そして王の援助を受け、数か月の後にキリスト教は公認され、数年後には王をはじめ数千人、数万人が洗礼を受ける。

これを喜んだ教皇グレゴリーはオーガスチンをカンタベリーの司教から、新しく設立したカンタベリー大司教管区の大司教に任命する。オーガスチンはその後、聖ペテロ・聖パウロ合同修道院(のちの聖アウグスティヌス修道院)を設立する。

また彼は、新しい信者を司牧する際には過度な改革的手段を取らず、民族の伝統などを重んじた。さらに異教の祭礼や年中行事にもキリスト教的意義をつけて行うことを許した。寛容と忍耐をもってキリスト教を浸透させたといえる。ただ、西部地方のブリトン人のキリスト教徒たちからは、最後まで協力を得ることはできなかった。(Y)

<特禱>

信ずる者の光、魂の牧者である全能の神よ、あなたは、その言葉によってあなたの羊を養い、その模範によって彼らを導くために、しもべ、主教カンタベリーのオーガスチンを公会の主教に召されました。どうかわたしたちに恵みを与え、信仰を守り、その生涯に従うことができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン